

第1学年 総合的な学習の時間 学習指導案

指導者TS：島田 智
TY：山崎 詩織
GT：松塚 智宏
(ゲストティーチャー)

1 単元名 環境と人のかかわり

2 単元について

(1) 生徒や地域の実態

昨年、藤木小学校、角間川小学校、大曲南中学校の3校で、文部科学省から「環境教育に関する取組を活用した調査研究」の指定を受け、小・中連携して環境教育に取り組んできた。1年生も小学校6年生の時に、様々な環境についての学習や活動を行ってきた。

主な活動と身につけた力は、次のとおりである。(平成22年度実績報告書より)

- ①中学生による環境ワークショップで、環境学習を進めるにあたっての意識を向上させた。
- ②秋田県地球温暖化防止活動推進センターより講師を招き、地球環境の現状や問題についての体験的な学習から、地球温暖化について考える力を深めた。
- ③東北電力より講師を招き、発電方法によるCO₂の発生量の違いを視点に、各種の発電方法についての学習と発電体験を通して、発電に対する思考力、判断力を身に付けた。
- ④秋田県地球温暖化防止活動推進センターより講師を招き、地球温暖化の現状とエコクッキングの大切さを学習し、調理を実践することで環境に配慮する意識が育まれた。

などである。

アンケートによると、環境意識や環境行動に対する取組度は高く、「家で環境についての話をしますか」という設問に対して、80%以上の生徒が「よくする」「時々する」と答えている。また、「エコ活動に取り組んでいますか」という設問に対しては、95%以上の生徒が「よく取り組んでいる」と答えている。さらに「環境学習は好きですか」という設問に対しては、100%の生徒が「好き」と答えている。1年間の活動で生徒全体に環境学習が浸透し、興味・関心が高まり、充実した学習により環境行動にも著しい変化が見られる。家庭や地域の協力体制も充実しており、家庭や地域と一体となった環境学習が展開できる環境にある。

(2) 単元の設定について

今年度も「環境教育に関する取組を活用した調査研究」の指定を受け、小学校での活動をベースとして、一歩進んだ環境学習を推進する。1年生の総合的な学習の時間の単元「身近な人から学ぶ～環境と人 人と人とのかかわり」は、1年間を通して環境学習に取り組む単元である。学校全体のテーマ「自分を取り巻く「環境」再考」を1年生の発達段階に合わせて設定した単元である。単元の設定は「エネルギー」「国際理解」「食育」の3つの視点から環境教育にアプローチするカリキュラムを展開する。「エネルギー」では、講演会や企業のCSRによる出前授業等を取り入れる。「国際理解」では、ユネスコスクールとしての活動を通して、国際理解から環境を考える学習を展開する。「食育」では、家庭との連携を密にし、食と環境のつながりを見つめる。また、各教科等の環境についての学習内容と、総合的な学習での環境学習のつながりをはっきりさせ、総合的な学習の時間を中心として、各教科等との連携を図った環境学習から、ESD(持続発展教育)に迫る単元構成とする。

(3) 指導にあたって

本単元は、1年間を通しての環境学習を主とするものであるため、環境に関する小単元を設定し、小単元のつながりを意識できるようにしたいと考える。そして、様々な出前授業等を導入することで、「本物に触れる」ことを重視した指導を展開したい。自分の考え方や行動の変化が分かるよう、学習したことをファイリングし、確認できるような指導を心がける。出前授業の場合、ともしれば受け身の学習になりがちなので、講師と綿密な打ち合わせをし、出前授業の中にも生徒一人一人が生き生きと活動できる場面を取り入れる。また、小単元終了後には学習の振り返りをし、学んだことと考えたことを文章で表現させる。その際、自分の現在の生活と結びつけて考えさせ、将来の地球環境を考えるようにさせたい。未来の環境は、現在の取り組みの結果として現れ、最もその影響を受けるのは未来の人々、すなわち現在の子どもたちである。その子どもたちに、今考えさせ、今できるアクションを起こさせることは非常に重要なことと考える。持続可能な社会の構築を考えることは、自分の未来を拓くことだという認識のもと、環境教育から「ESD(持続発展教育)」へのアプローチを試みたい。

3 単元の見目

環境や環境問題に関心をもち、人間活動と環境の関わりについて総合的な理解と認識の上に立って、環境に働きかける技能や思考力・判断力を身につける。

4 単元の評価基準

	(ア)関心・意欲・態度	(イ)思考・判断・表現	(ウ)技能	(エ)知識・理解
単元の評価基準	①地球環境に関心をもち、進んで調べようとしている。 ②進んで省エネやリサイクルなどの循環型社会の構築に向けた活動に取り組んでいる。	①環境保全の重要性やエネルギー事情などについて問題を見出し、その解決法を考察している。 ②持続可能な社会の構築に向けて、適切な判断にもとづいて行動している。 ③学習したことに、自分の考えを加えて表現している。	①情報を収集し、適切に選択、処理、分析している。 ②環境問題に関する調査・観察・実験や行動・実践を通してそれらに必要な方法、技能を身につけている。	①日常生活におけるエネルギー利用の現状や課題について、エネルギーの科学的特性をふまえて理解している。 ②循環型社会の構築とそれに結びつく諸活動の必要性や、一人一人がそれに主体的に参加する必要性などについて理解を深めている。

5 単元計画

小単元	主な学習活動	評価基準及び主な評価方法
環境学習ガイダンス	「エネルギー」「国際理解」「食」でウェビングを行い、これからの環境学習の見通しをもつ。	(ア) ① 学習シートによる評価
VTR「地球大変動」から考える	VTR「地球大変動」を視聴し、地球温暖化の影響について考え、意見を述べる。	(イ) ①③, (ウ) ① 学習シートによる評価、パフォーマンス評価
有機野菜を育てよう	給食センターの堆肥を使つての野菜栽培をし、循環型社会についての考えを深める。	(ア) ② パフォーマンス評価
グローバルウィンドデーに参加しよう	風力発電協会の出前授業で、風力発電についての知識を高め、自然エネルギーの有用性を考える。	(エ) ①② 学習シートによる評価
駅浜クリーンアップに参加しよう	下浜海水浴場のクリーンアップに参加し、環境保全には国際的な取組が必要であることを気づく。	(ア) ②, (イ) ② 学習シートによる評価
小さな生物の大きな力	大曲農業高校農学博士教諭による出前授業から、微生物のはたらきを、環境の面から考える。	(ウ) ② 学習シートによる評価
書を持ち街に出よう	海外青年協力隊経験者の講演を聞いて、国際理解から環境を考える。	(イ) ①, (ウ) ① 学習シートによる評価
50年後のエコハウスを設計しよう (本時)	未来の住宅のエコについてグループで討議し、発表する。	(ア) ①, (イ) ③, (ウ) ① パフォーマンス評価
環境と都市計画	未来のエコな街づくりについて、グループで討議し、発表する。	(ア) ①, (イ) ③, (ウ) ①

6 本単元と各教科等との関わり (環境ESDカレンダー参照)

7 本時の展開 (22/25)

(1) ねらい

省エネルギーの住宅設計について話し合い、グループでアイデアをまとめ、発表することができる。

(2) 本時の学習過程

学習活動・内容	教師の支援	評価規準
1 本時の課題を確認し、本時の見通しをもつ。	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲストティーチャーを紹介し、課題、計画、時間を確認する。 	
<h2 style="margin: 0;">50年後のエコハウスを設計しよう</h2>		
2 世界情勢についての説明を聞く。	<ul style="list-style-type: none"> ・温暖化、オイルピーク、世界スタンダード規制などを紹介する。(GT) ・今、「エコ」が必要だということを強調する。 	
3 自分の家で「エコでない」ところを見つける。 (個人ワーク)	<ul style="list-style-type: none"> ・巡回指導する。(TS, TY, GT) ・家の中で CO2 を発生させる場所を、探すようにさせる。 	<p>(ア) ① 自分の家の「エコでない」ところを、真剣に探している。</p>
4 どうすればエコハウスがつかれるか考える。 (グループワーク)	<ul style="list-style-type: none"> ・家はどんな場所にあったらいいか、家はどんな形のものかを考えるようにさせる。 ・グループを巡回指導する。(TS, TY, GT) ・50年後の家なので、実現性は考えなくてもいいことを伝え、様々なアイデアを出すようにさせる。 ・A3紙に自由に書くようにさせる。 	<p>(ア) ① エコハウスについて関心をもち、グループ内の話し合いに、積極的に取り組んでいる。</p> <p>(ウ) ① 話し合いの情報を整理して、グループの案をまとめている。</p>
5 グループで考えたアイデアを発表する。	<ul style="list-style-type: none"> ・アイデアの特徴を強調して発表するようにさせる。 ・はっきり伝わる声量で発表するようにさせる。 ・いいアイデアには専門家 (GT) が賞賛の言葉を贈る。 	<p>(イ) ③ 話し合ったアイデアを分かりやすく発表している。</p>
6 世界の建築家が考えたエコハウスの紹介を聞く。	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の建築家が実際に考えているエコハウスを、生徒のアイデアと照らし合わせながら紹介する。(GT) 	
7 今日の活動のまとめをする。	<ul style="list-style-type: none"> ・省エネは我慢することではなく、新しいアイデアを考えることで実現可能になるというメッセージを伝える。(GT) 	